

粟島活性化における広報のあり方を学ぶ ～しばたサマーフェスティバル2023の活動を通して～

共生社会学科 趙 晤衍

趙ゼミでは2019年度より粟島活性化プロジェクトを立ち上げ、学生たちが主体となって様々な活動を展開してきている。主な活動内容としては、粟島に自生しているアマドコロという山菜を活用した粟島特産品づくりに向けての活動に力を入れている。また、その他の活動としては、毎年夏休みには2泊3日の日程で粟島を訪れ、しおかぜ留学生（全国からの粟島小学校への留学制度）との交流会を開いており、ゼミ生たちは、あわしま牧場での乗馬体験や子どもたちとのBBQや馬のお世話、あわしま牧場周辺の海岸掃除などへの活動を通して子どもたちとの交流を深めてきている。



今回のサマーフェスティバルにおいては、主に趙ゼミ3年生が中心となり、粟島特産品として開発してきたアマドコロの商品としてアマドコロミルクアイスの販売を行うことになった。アマドコロミルクアイスは2019年度に商品化に成功し、粟島の直売所や敬和学園大学売店において限定販売中（現在、粟島のアマドコロは自然のものであり、商品化には人工栽培を目的とした栽培実験を行っている）である。

今回のサマーフェスティバルへの出店には、新発田市民にも広く粟島について知ってもらうことを学生たちは目的に据えて活動を行った。サマーフェスティバルにおける販売メニューには、学生たちが自ら開発してきたアマドコロミルクアイスを中心に据えながら、粟島の直売所と連携を組み、粟島の各種魚介類など（粟島の冷凍真鯛や乾燥ワカメ、一人娘大豆の煎り豆）も併せて仕入れ販売を試みた。

これらの準備活動はすべて学生たち主体で行われており、粟島との連絡や仕入れなども学生たち自ら行ってきた。

サマーフェスティバル当日には趙ゼミ生3年4名が参加し、2年生も応援に駆けつけてくれた。今回のアマドコロミルクアイスの販売による利益については、2023年9月に予



定されていた粟島合宿におけるしおかぜ留学生との交流会の子どもたちへのお土産として還元することが目的とされ、サマーフェスティバルでの活動を通じた粟島物販活動を通して、粟島への周知のみではなく現地の子もたちとの交流会のための資金確保もかねていたことは学生たちの優れたアイデアであったといえる。

今回のサマーフェスティバルにおける課題としては、開催時期が夏であったこともあり、アマドコロミルクアイスの売り上げは良かったものの（120個仕入れて100個販売）、粟島物販であった冷凍魚や乾燥ワカメなどの特産品の販売は低調であった。活動後の反省を通じた学生たちからは、サマーフェスティバルに参加する一般市民の立場から考えると冷凍魚やワカメなど、祭りを楽しみながら持ち歩くにはそもそも商品選びが祭りとは合致していなかったのでは、との意見が多く上がった。



今回のサマーフェスティバルの学生活動について担当教員として感じたことは、学生たちの主体による粟島活性化への取り組みが多くの新発田市民などに周知できたことへの意義と趙ゼミにおけるサービスラーニング活動の軸であるソーシャルビジネスの実践について具体的に学ぶことができたことは大きな収穫であったと思っており、今後も学生たちの本学のサービスラーニング活動への積極的な参加を期待したい。